

国際人間学研究所シンポジウム
持続可能な観光2019年度
(於：中部大学不言実行館2階)

2020年2月26日(水)

ポスター発表
塩屋木雲
古川徳高
鶴飼 要
末田智樹

飛騨高山の歴史観光都市としての
伝統を支える人々が暮らす社会空間
研究プロジェクト

岐阜県高山市における歴史文化観光地域の 成立背景及び現状と課題

目次

- 【1】発表の目的
- 【2】高山市の歴史文化観光地域の成立背景
- 重伝建、酒造、木工具、高山祭から -
- 【3】高山市の観光動向と取り組み
- 【4】高山市の歴史文化観光地域としての課題
- 【5】まとめ

写真1 高山駅前 (塩屋木雲君)

【1】発表の目的

- ①歴史文化観光地域としての成立背景
→産業・文化面の歴史から検証
- ②高山市の観光動向と取り組み
→現状の検証
- ③歴史文化観光地域としての課題
→国際観光都市として高く評価されながらも問題が生じていないか?

写真2 宮川朝市 (全写真は末田撮影)

写真3・4 高山陣屋跡

写真5 高山市政記念館 (旧高山町役場)

【2】高山市の歴史文化観光地域の成立背景

(1) 観光資源としての重要伝統的建造物群保存地区

写真6 三町伝統的建造物群保存地区
上三之町町並保存区域

●1979 (昭和54) 年2月18日指定
: 高山市上一之町、上三之町、上三之町、片原町、神明町4丁目の各一部

写真7 下二之町大新町伝統的建造物群保存地区
吉島家住宅 (国指定重要文化財)

●2004 (平成16) 年7月6日指定
: 下二之町、下二之町、下三之町、八幡町、大新町1丁目、大新町2丁目、大新町3丁目、大新町4丁目の各一部

【天領・飛騨高山の豪商=旦那衆】

●谷屋 (日下部) 九兵衛家・同族団組織、地主的経営、大名貸して高山町の旦那衆のなかで上位へ

写真8 日下部家 (民藝館) (国指定重要文化財)

→町人の首座「旦那衆」の存在
・全国の都市では京都や金沢、博多など多くの地域で確認
・**辺境地に限定すれば飛騨高山のみ**

江戸期の西日本を中心とした豪商の拠点

(2) 観光資源としての酒造業

●特徴・6軒の酒蔵めぐり (毎年1~2月、第45回まで)
2020年から「飛騨高山7蔵のん衛まつり」へとリニューアル

●現在・重伝建の三町に造り酒屋
一之町・平瀬家
二之町・二本家、川尻家、平田家
三之町・原田家、船坂家

●銘柄は飛騨、天領など
→地域名・歴史と関連

●本醸造、純米酒、吟醸酒、大吟醸酒など
→種類の豊富さ

写真9 高山駅での広告「飛騨高山7蔵のん衛まつり」

写真10 平瀬酒造店 (久寿玉)

写真11 二本酒造 (玉の井)

写真12 平瀬酒造店の醸造用タンク

(3) 観光資源としての木工具産業

写真13・14 飛騨国分寺 三重塔 (岐阜県重要文化財)

写真15 屋台の修理作業所

写真16 飛騨・世界生活文化センター

写真17 飛騨の家具と工芸の館 匠館 (下三之町)

写真18 飛騨の家具館

写真19・20 ミュージアム飛騨 (飛騨の匠ミュージアム)

(4) 観光資源としての高山祭

16世紀後半から続く
国の「重要無形民俗文化財」

●春の高山祭「山王祭」・4月14・15日開催
・旧高山城下町の南半分の氏神様である日枝神社の例祭
・安川通りの南側を舞台とした屋台12台の曳き揃え

●秋の高山祭「八幡祭」・10月9・10日開催
・旧高山城下町の北半分の氏神様である櫻山八幡宮の例祭
・安川通りの北側を舞台とした屋台11台の曳き揃え

→2018 (平成30) 年度観光客数・春：約15万5,000人
秋：約14万1,000人

高山祭の観光客入込者数の推移 (千人)

写真21・22・23 高山祭屋台会館及び屋台

写真24 まつりの森 (塩屋木雲君)

図1 1970年代以降高山市の観光地域の形成過程

戦後 1970年代 1980年代 1990年代 2000年代 2010年代 2020年代

写真25・26・27 下二之町の高山陣屋館 (塩屋木雲君)

写真28 神明町の飛騨高山レトロミュージアム

写真29 飛騨高山まよの博物館 (旧末田家・大坂屋吉右衛門)

